

## 全教広島第41回定期大会 職場のモヤモヤ拾い上げ、対話で共感広げよう 平和と民主主義守り、笑顔で過ごせる学校を！

全教広島第41回定期大会は、オンライン併用で5月17日(日)、広島ロードビルで開催されました。大会には支部・専門部選出の代議員など51名(会場34名、オンライン17名)が参加しました。広島の学校と教育の厳しい現状が交流されるとともに、それらを打開する小さな一歩や展望が語られ、提案されたすべての議案が全会一致で採択されました。



あいさつに立つ船石執行委員長

開会のあいさつで船石執行委員長は、最近、耳にする「今だけ、自分だけ、お金だけ」という言葉に触れ、その最たる例として、自国ファーストを掲げ、他国への介入・侵攻・略奪する米国、それに乘じて「戦争する国づくり」を進める日本政府を挙げました。また、担任加算や主務

教諭など、教職員の分断をはかる改定給特法や、結局は維持費の削減がねらいの県立高校の再編統廃合計画を、目先の利益を追う資本主義の末期症状を見ているようだ指摘しました。

その上で、全教はこれまで一貫して「今だけのことでなく、ずっと先のことも考える」「自分だけでなく、みんなのことを考える」という考えで進んできたとし、憲法記念日の五万人集会にも触れながら、厳しい情勢とその中での希望を、となりの先生や子どもたちに語り、運動を前進させようと語りました。



山元幸一  
全教書記次長

全教本部からは、山元幸一書記次長が現地参加。改定給特法の問題点や、再改定を求める署名5万筆をめざす運動の呼びかけ、教職員の未配置問題などについて触れ、全国連帯で「せんせいふやそう」の運動を前に進めようと呼びかけました。

執行部からはキャンペーンを活用した組合と共済を一体にとりくむ対話・組織拡大の運動、5・20全国一斉定時アクションやえがお署名などのとりくみ、勤務労働条件改善のための県教委交渉などに向けたアンケート集約のとりくみ、高校統廃合反対のとりくみ、憲法改悪を許さず、平和、核兵器廃絶を求める取り組みなどが提起されました。

辺野古沖で起こった死亡事故の問題で、文科省が「教育基本法の政治的中立違反」と断じて学校法人同志社に是正を指導しました。教育基本法14条2項に「学校は特定の政党を支持または反対するための政治教育、その他の政治活動をしてはならない」に抵触すると判断したものです。そもそも「政治的中立性」は「本来、政治が教育現場に介入するのを防ぐための規定」であって、今回の文科省の判断は国家が教育内容に介入していると考えるべきです。この影響はすでに表れていて、大阪府は府立中高に抗議船運航団体と修学旅行での関わりを調査しています。京都府知事は、同志社に対する年間2億円の交付金の減額を検討するとしています。広島はどうでしょうか。調査があるかどうかは別にして、学校の平和と教育に大きな影響が心配されます。今、学校における平和教育をどう再構築するかは重要な課題ですが、今後「法令遵守」の名の下に、ますます教育実践の自由が奪われていくことを危惧します。全教広島は、「主権者を育てる教育」のあり方を掲げ取り組んできています。今年の「つどい」でも「平和・人権・民主主義」の教育課程づくりをすすめていきたいと思います。(E)



# 定期大会

# 発言要旨



広島市教組 (全教)

安佐生研で学習しているKさんが組合に加入してくれた。勉強熱心な方で、4月の「学級びらき講座」では特別支援の講座の講師をしてくれた。講座の後「豊かな実践をするためには、勤務労働条件の改善も必要だよ。組合に入らない？」と訴えると、「組合の先生が頑張ってくださいていることは知っていた、入ります。」と、すぐに入ってくれた。①色んな人から、声をかけ続ける

②学習する機会、学びで繋がるのが大切だと思った。

①ICT化について。小学校ではタブレットを使用するために教師



佐伯支部

の準備が大変。保育園では園・クラスのたよりにや登降園記録のデジタル化。保護者と直接話す時間が減った。

②小学校ではチーム担任制。4クラスを5人の担任が1週間ごとに交代。保育園でもチーム保育。乳児担任が年長担任になることもある。

③小学校では自由進歩学習。授業準備が大変。保育園では、自由保育。やりたくなるまで待つ保育。これら3点は本当に子どもの成長を育むことになるのだろうか。



広島市教組 (全教)

今年1月に4月からの栄養教諭の労働条件の変更が市教委から告げられた。市教委の中のたった一人の栄養教諭から連絡があり、2度の市教委交渉を行い、変更を凍結

させた。このとりくみの中で私の職場の栄養教諭が加入を決意してくれた。一人の要求をみんなが実現する。組合のあり方そのものだと思う。その他にも、「これまで組合にお世話になってきたから」「組合に入ったら互いを守り合う仲間になる」「職場が息苦しい雰囲気になった。組合が必要なのは」などの理由で3名が加入してくれた。私たちが互いに仲間を守りあう。そんな組合であり続けたい。



女性部

6月27日、ロードビルで女性部総会を行う。今年も育児に関する権利について学習する。我が子どもが不登校だったり療育にかかったりしている先生は意外と多い。子育ての悩みなどの話ができていいなと思っている。アンケートも実施

する。多くの声を集め専門部交渉に活かしたい。11月3日には秋の学習会を予定。元気が出る話と女性部ならではの癒しタイムを計画。育児短時間勤務が当たり前前に取れる現場にしていきたい。素敵な先生が家庭と仕事の両立に悩み、退職することがないように…。



障害児教育部

①障教部アンケートを実施する。各学校で多くの人に呼びかけてほしい。②わいわいトークカフェも呼びかけを。特に今年から特別支援学級の先生になって、何をしたらいいのかわからないという方におすすすめ。③県立広島特別支援学校と県立広島中央特別支援学校の寄宿舎の合舎が通知された。肢体不自由の子どもたちは移動に困難が伴う。また、2つの特別支援学

校は障害種が違う。特に週の始めと終わりの荷物が多さ、遠方から通う生徒の通学時間の延長など様々な疑問が浮かぶ。本当に合舎していいのだろうか。



海田支部

これまでの組合の運動の成果もあって、育児中の働き方には、いろいろなパターンが制度として積み上げられてきた。私も育児中だ。転職してきた昨年度は、部活動など様々な仕事を割り振られていたが、今年は配慮してもらっている。しかし、制度はあっても人員が充分でなく、育児短時間勤務などを選択しても、結局遅くまで仕事をやるなどの例は多い。私の知り合いの美術の先生も、いろいろ悩んだ末に退職を選ばれた。全教の「せんせい

## 核兵器廃絶は世界の主流

### 神部副委員長が被団協NY行動を報告



NPT NY行動を報告する神部副委員長

今大会は、ニューヨークで核不拡散条約(NPT)再検討会議が開かれている最中で開催されました。日本原水協はそれに合わせてNY行動を実施。参加した神部副委員長がその報告を行いました。神部副委員長は、そもそもNPTとは何か、核兵器保有国に核軍縮を求める第6条を中心とした各国のせめぎ合い、最終文書の採択へ向けた各国代表や国連の努力、その中でのNY行動代表団の行動などについて報告。今の情勢の中、市民運動の重要性を再確認する機会となりました。

ふやそう」のとりくみが前進し、だれもが安心して働ける学校になってほしい。





福山支部

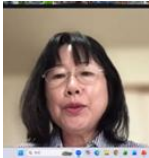
この間の県立高校統廃合反対の運動について報告する。福山地域は5校を1校に統合するというとんでもない計画だ。これまでも①沼南高校前で生徒の声を聞く、②街頭署名で地域の声を聞く、③県教委への嘆願書の提出、④福山市教委への申し入れ、⑤地元県議会議員への要請などに取り組んできた。県教育委員会議で計画が正式決定はしたが、当事者や地元、県民への説明もなく統廃合を進め教育予算を削ることは許されない。これから情勢を押し返していくさらなる運動を進めよう。



尾道支部

特別な配慮が必要な児童・生徒のための

教員(特配)の配置を増やしてほしい。昨年度、中学校の特配(週20h)として勤務した。今年と同じ校区の小学校に同職として赴任した。ところが、中学校の特配は、今年度は配置されていない。先日、中学校へ出向いたところ、先生らから「昨年はずっとも助かっていたのに、今年は先生がおられないから、教室に居づらい子の行き場がなくて困っている」と聞いた。なぜ一度定着した配置をもぎ取るのか。現場の実情を伝えつつ、県や市に要望し、人員増をめざしたい。



海田支部

海田支部は今年2月に第3回目となる「教育のつどい2025 inくれ」を開催した。教員・保育士・親・支援者・市民が、子どもの生きづらさに寄り添う教育を学び合

った。4回の実行委員会で、講師の山岡先生にも参加してもらい、準備を重ねてきた。当日は44名が参加し、講演とグループ討議を通じて、多様な立場からの意見を交わし、対話と共同を深めた。今年度も4月に実行委員会を発足させた。地域に根ざした子ども・教育を語る場として定着している。今後も保護者・地域と連携し、運動を広げていきたい。



福山支部

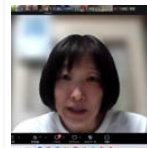
「学校に行きたくない」という子どもとそれに同調する保護者、そしてそれへの管理職の対応などについて。Aくんが、ある教師に注意を受け、そのことを聞いた親が「子どもが『学校に行きたくない』と言っている。その先生と顔を合わせないようにしてほしい」と訴えてきた。校長は



青年部

それを受け、2つある校舎の片方だけをそれぞれが行き来するようにルールを決め、保護者を納得させた。しかし、この対応でよかったのだろうか。保護者と先生の良好な関係はどのように築いていったらいいのだろうか。

「月に一回集まり、2ヶ月に一回は学習会を」と、「人が集まらなくても定期的な会をもつことが大事」との思いでオンラインも活用しながら役員会や学習会にとりくんでいる。3月には、青年部学習会を教育研究所で行った。参加者は7名。青年部の2人が日々の実践をレポートし、子への支援で何を大切にしてきたか、すぐべきか、新年度のスタートにあたっての心構えや実践について語り合った。今後も、青



養護教員部

年教職員の、自分達のやってみたい！を大切に、仲間の輪を広げていきたい。

今年も定期健康診断の時期がやってきた。連休明け、環境の変化の中で頑張ってきた子どもたちにも疲れが出てくる。不登校の生徒は年々増加し、学校にもその対策が求められているが、人的な保障がなく先生の負担が増すばかり。4月、私の勤務する学校では、「業務改善」を理由に1日開いていた相談室が午前のみ開設になった。午後から登校していた生徒の登校日数は減り、早退する生徒が増えた。人を増やしてほしいという要求を組合で行うと同時に、子どもたちとのつながりを大切にした取り組みを続けていきたい。

## かつてない改憲の危機の中 今こそ声を上げよう

今大会では、「平和と民主主義を守り、子どもと教職員が笑顔で過ごせる学校をつくろう」との大会宣言とあわせて、今、危機を迎えている憲法に焦点を当てた特別決議を採択しました。高市政権による「戦争する国づくり」が進行する一方で、これまでにはない層も含め、多くの国民が「戦争反対」と声をあげています。「教え子を再び戦場へ送るな」の誓いを確認し、行動を起こそうと決意を固め、あう大会となりました。

大会宣言と特別決議は全教広島掲載HPに↓



全会一致で議案を採択。議長のお二人(上の写真の右下)、お疲れ様でした。

# 5・20全国一斉定時アクションに60post



## 「せんせいふやそう」の思いを全国の仲間と共有

5月20日(水)を中心に、18日から22日の5日間、全国一斉定時アクションがとりくまれ、給特法の再改定を求める署名の5万筆集約をめざし、教職員の働き方や教育をとりまく情勢を社会に発信する行動が全国各地で実施されました。

全教広島は、署名の再依頼と、職場で「せんせいふやそう」の世論を喚起するメッセージのXへの投稿(ポスト)を中心に呼びかけました。とりくんだ職場では、多くの未組合員も加わり、60ポスト、約70名が行動に参加しました。

署名は、6月11日に衆議院第2議員会館第6会議室で行われる提出集会で国会に提出されます。手元に署名がある方は、書記局への集中をお願いします。(Xの「全教広島」のページで全てのポストを見ることができます。)

**学習会に参加し  
学びを力に!**

広島県教委は5月15日の教育委員会議で、県立高校の再編統合計画を決定しました。当事者・地域・県民への十分な説明もなく、一方的に計画をこのまま進めることは許されません。下記の学習会に参加し、学びを力に変えて、再編統合計画の見直しを求めましょう。積極的な参加を呼びかけます。(どちらも資料代500円。問い合わせは書記局へ)

**広島県教委  
高校再編計画決定を強行**

## 全国で進む新たな学校統合再編計画

～広島県の実施計画に抗して～

講師：山本 由美さん 東京自治体問題研究所理事長  
和光大学名誉教授



6月6日(土) 14:00～福山市市民参画センター  
6月7日(日) 13:30～広島ロードビル